様式４

令和3年2月9日

令和2年度　　学校関係者評価及び改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

広南中学校区　校番　２　学校名　呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	○前回（中間）に引き続き，昨年度の課題「自分の考え（主張，事実，論拠）を相手に分かりやすく伝える」ことについて，三角ロジックの考え方に基づいて適切に目標を設定している。
目標達成のための方策の適切さ	A	○2学期の方策や今後の方策についても適切である。 ○目的（課題）に応じたタイムリーな指導を行っている。 ○今後も，成果と課題を生かしながら積み上げる教育活動を期待する。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○生徒アンケート，保護者アンケート，教職員アンケートと三者の評価を集め，具体的に数値や個々の意見を把握し，分析している。また，データだけでなく管理職の観察や生徒の行動や思いなど，直接関わる中で見取っている。
今後の改善策（案）の適切さ	A	○今年度の実践の成果と課題を整理し来年度に向けて，授業改善をはじめとする焦点化した改善を望んでいる。
その他	＜授業参観を通して＞ ○授業を通して，教職員が一人一人の生徒と向き合っている姿がよく分かった。 ○効果的にICTを活用し，生徒もタブレットを使いこなしていた。 ○新型コロナウイルス感染症対策の中で，様々な配慮や工夫をしながら，教職員は，元気よく授業を行い，生徒たちが安心して授業に臨むことができている。 ●授業のねらいを明確にして，そのテーマに向けて集中する授業づくりを期待する。 ＜コロナ対策について＞ ○引き続き，教室の換気等の対策を行ってほしい。 ＜全体を通して＞ ○先生も元気が良く，生徒の欠席も少なく，表情も明るい。 ○コロナ禍でもできる映像中心の文化活動発表会の内容に感動し元気が出た。 ○広南中学校が，地域貢献を大切にしており，「地域の学校」であることが大変うれしい。日本一の地域と共にある学校を目指してほしい。また，地域も子どもたちのために協力したい。本校は「日本一の学びとありがとう」を大切にしている。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	①授業改善について【ことば磨きとICTの活用，評価活動】 （1）ICTは，授業の目標の達成に向けて効果的に活用する。 （2）生徒へ課題意識をしっかりと持たせ，全員で課題を解決する授業づくりを行う。 （3）授業者は，生徒自身が自分の学びを振り返ったり，粘り強く学んだりすることができるよう，教材開発と自己評価の工夫を行う。 ②生徒の挑戦する場の設定について【資質・能力の育成】 （1）総合的な学習の時間を中心に，「志→準備→挑戦→振り返り」の学び方にそって，生徒の挑戦する場を設定し，生徒の資質・能力を育成する。 （2）各授業や特別活動，総合的な学習の時間において，「振り返る」場を設定し，さらなる志を抱かせ，質の高い教育活動を展開する。 （3）生徒会が中心となり，その時の旬に沿った地域貢献，社会貢献を行う。また，小中一貫教育校だからできる取組を大切にする。 ③教職員の業務改善による生徒に直接向き合う時間の確保について【業務改善】 （1）本校の伝統である「挑戦」，「創造」を生徒ともに進めるためにも，生徒と直接向き合う時間を確保するために，必ず前年度の成果と課題及び改善策を確認した上で，今年度の実践を精選する。（スクラップ＆ビルドの視点で） （2）今年度の実施した取組の成果と課題を受けて，来年度の計画（広南学園教育資料集）を作成しておく。